

 <p style="font-size: 2em; font-family: cursive;">みずみどり</p>	<p style="text-align: center;">2001年3月15日 第23号</p> <p style="text-align: center;">発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 ホームページ http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm E-mail : mizumidori @ nifty. com 〒173-0032 板橋区大谷口上町28-7 江戸方</p>
--	--

自然をとりもどすためにあなたができることは？

会ができてから4年たちました。その間に、自然って大切だねと言う人が増えたような気がします。市民と行政が協力して地域をよくしていくパートナーシップもあたりまえになってきました。

この1年を振り返って、会員が企画に参加できるような運営ができなかったことを運営委員一同深く反省しています。13年度の活動計画を検討するに当たり、みなさんがやりたいこと、日頃気になること、活動に参加しない理由（踏み込めない何か）、会報の紙面づくりなどについて、ご意見をお寄せください。13年度の活動計画に生かしたいと思います。

みなさんからいただいたご意見をもとに、4月の運営委員会では13年度の活動のあり方について議論します。よりよい「いたばし水と緑の会」のために、多くの方が運営委員会の話し合いに変わってくださることを期待しています（4月運営委員会は4月6日（金）夜6時30分から）。

（送り先：FAX3969-7124 メール Torasiro@aol.com または郵送板橋区前野町5-31-7 瀬田政江まで、3月末までをお願いします）

総会と話し合いの会

- 1 日 時：4月22日（土）午後1時30分から
- 2 場 所：文化会館5階第1和室

第1部 総会

- (1) 12年度の活動報告、会計報告
- (2) 13年度の活動計画案、収支予算案について
- (3) 役員を選出

第2部 「自然をとりもどすためにできることは何？」

これから何をするかといった企画や、どのように運営するかといった一般論（ありかた論）ではなく、具体的な、「私はこんなことをしたい」「私は〇〇の活動については企画から参加したい」といった話し合いをしたいと思います

- 3 その他 名札のある人は忘れずに。欠席される方は委任状を事務局までお送り下さい。

昔の自然を語る会

聞き取りまとめ：瀬田 政江

2月17日、徳丸出張所にて昭和初期から40年頃までの西台、若木地域の水の話、田んぼ、川、虫、鳥、動物などなど話をうかがいました。

お話頂けたみなさん：

浅羽彦三さん（大正15年、板橋区西台生まれ。昭和の初めから30年頃までの自然を中心とした話をして頂きました）、泉貞代さん（大正15年生まれ、若木3丁目）、老川則子さん（昭和8年生まれ、西台1丁目在住）、植田千佳子さん（昭和4年生まれ、現在は東新町在住）は結婚後、板橋の若木、西台にお住まいになり、今回は昭和30年～40年頃の話を中心に現在までの話を伺いました。

昭和初期～20年頃まで・浅羽さんの少年時代の西台

生まれたところは西台の台地北側。「うさぎ追いしかの山、こぶな釣りしかの川」といった田園風景だった。秩父連山を望み、きれいな田んぼが続き、小川が流れ、荒川に注ぐ大小の川がいくつもあり、川では魚がたくさんとれた。私がよく遊んだのは前谷津川の支流の田中川だった。西台の低いところでは、少し（3、40cm）掘ると、豊かな湧き水が溢れ出てくるところで、それを生活用水として利用した（つるべは不要）。母の時代には荒川の水があふれて洪水になっていたと聞いているが、私の時代には洪水はなかった。

今はタヌキがいるが、昔はあまり見かけなかった。また母から聞いた話では、母の時代にはキツネもいて、畑から帰る時、キツネの親子が追ってきては、サツマイモや麦のおにぎりをもらったそ



うです（キツネが出たところは西台いこいの家の下の道。昔はこの道だけだった）。イタチはたくさんいた。毛皮やその他の用途があるらしく、イタチ取りの職業があった程。カッコウ、ウグイスが鳴き、よくキジを見かけた。フクロウは、夜「あれがフクロウの声だよ」と言われたことがある程度。近くの川にはナマズ、ダボハゼ、フナ、エビ、ドジョウなど。田んぼの稲の刈られた株を起こすとドジョウがいてすぐとれた。新川（新河岸川）にはシジミもたくさんいた。その他 サワガニ、トカゲがいた。

面白いドジョウ取りのはなし

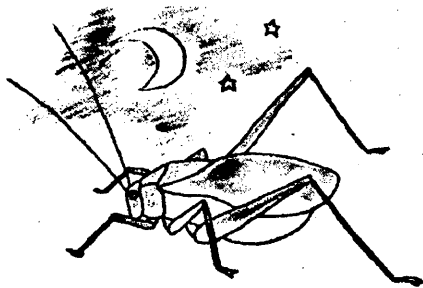
夏の夕立の前になると、普段は籠屋の仕事をしている人が竹で編んだ円筒形の「ウケ」というものを両肩に40個もかついで、田んぼの縁に仕掛けて歩き、夕立の後回収して歩いた。「ウケ」の中はドジョウでいっぱいになり、ドジョウが窒息する位獲れた。



アメリカザリガニは昭和20年より前にはいなかった。戦後すごい勢いで増えたという事でしょうか？

西台では、田植えの頃になると、ウシガエル、トノサマガエルなどがケロケロ、オーオーと鳴き、夕方になるとカエルの声はぱたっと止まり、夜はジージーとオケラが鳴き続けた。夕暮れにはコウモリが飛び交い、また田んぼや草むらなどには、マムシが多く生息していて、そのマムシから漢方薬などを作るのでマムシで財を築いた「マムシ大尽」もいた。但しマムシの漢方薬には、アオダイショウも入っていたとか？

刈り取りの頃になると、イナゴが刈り残された稲にすずなりとなり、布の袋にいっぱいになった。イナゴ取りは女の子がやった。



鳴く虫では、コオロギ、スズムシ、スイッチョ、宵のうちはガチャガチャなどがうるさいくらいだった。セミはアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシなど。カナヘビ、トカゲは踏むほどいた。カブトムシは家の中まで飛んできた。カミキリムシ、タマムシ、カナブンなどなど多数いた。夜、ホタルは田んぼの周りでは手で取れるほどだった。蚊帳の中にホタルが入ったりしていた。

養蚕は、昭和に入ってからには産業としては終わっていたが、古い家には、先祖の苦勞をしのぶためか残しているところが多く、今は桑の木が大木になっている。蚕を飼うときの大きな籠などが残っていた。

お茶は葉を摘んで加工してもらっていた。板橋ではダイコン畑が多く、沢庵漬を仕事とする家も多かった。

風呂は木の桶。余談として、棺おけは昭和10年頃まで坐棺で、棺おけの隙間には初穀を詰めた小さな紙袋を入れた。昭和30年頃からは火葬になった。

次号は泉さん、老川さん、植田さんのお話です。板橋の昔の自然についての投稿や、お話を聞かせてくださる方を募集しています（事務局）。

梅まつりに参加

3月3日、4日は赤塚溜め池公園の梅まつりが開かれました。今回は、いたばし水と緑の会・環境保全課共催の「環境コーナー」と書かれた看板も立ちました（4日は雨で不参加）。

会では、会の紹介パネル、参加の呼びかけパネル、池の自然維持のため協力を求めるパネルなどを展示しました。例によって池のギャング達（ザリガニ、カメ、ブラックバスなど）や、自然ではないヒメダカやキンギョの紹介パネルには、大勢の人が熱心に見ていきました。

また、公園協会からもらった竹（雪で折れたもの）「花入れ製作実演」は休み暇もない位でした。環境保全課では、屋根に降った雨を地下に浸透させ、湧き水を増やす「雨水浸透ます」を展示。梅まつり参加者11人。新しい会員2人が応援に参加され、うれしいことでした。

赤塚自然池のこれからについて

2月3日の調査をもとに、2月18日に、どうすれば赤塚自然池が本当の自然になるか、検討しました。これまで会では様子を見ながら、ザリガニ捕獲などやってきましたが、ちょうど2年たったところで、具合の悪いところを直すことになりました。

その内容は、湧水水路の下流側を掘り下げて勾配をつけ、コンクリートの泥だめを切り欠いて、溜め池に水が流れるようにします。また、泥だめからザリガニが水路に入ってこないような工夫をします。作業は17日（土）、詳細は後のお知らせをご覧ください。なお、5月12日（日）にかいぼりとザリガニ捕りをします。

公園協会と意見交換（その2）

「公園を自然に」と言っても、私たちのなかでも人それぞれに少しずつ考え方が違います。2月9日（金）は、公園協会から3人の方が見えて、私たちの思っていること、行政が考えていることを、お互いにじっくり話し合いました。狭い赤塚公園の崖線の自然を「よい状態で次の世代に引き継ぐ」というところでは、誰でも一致できるのではないのでしょうか。

いたばし水と緑の会も、都市の自然を理解し、生き物と共存できる自然っていいね、と言う人たちが増えていくようなPR活動が大切ですね。

明治大学公開講座「東京の自然と暮らす」全10回のご案内

4/10,24 藤本和典氏（シェアリングアース協会）「庭の自然」、5/8,22 奥水肇氏（明治大学農学部）

「屋上の自然」、6/5,19 細岡晃氏（東京都公園協会）「公園の自然」、7/3,17 倉本宣氏（明治大学農学部）「里山の自然」、7/31,8/7 関健志氏（日本生態系協会）「学校の自然とまちづくりへの展開」

時間はいずれも13時から14時30分、受講料は20000円+入会金3000円

詳細は：明治大学リバティ・アカデミー3296-4423まで

赤塚の1年間をふりかえって



自然池では、捨てられた生き物 (写真はカメ)、ザリガニの捕獲、浮島の実験など



柵を作って草を刈らない場所を確保した (4月)。9月の観察会 (右) では草丈が少し高く伸びただけで、昆虫の数も種類もすごく多いことに驚いた。

11月の自然発見ウォーキング。
ドングリや竹の工作コーナー



公園で剪定した枝を使って、あかみちの縁に柵をつくった。落ち葉もたまって、踏み込みも防止。

活動のお知らせ

どなたでも参加できます。名札を持っている人は忘れずにつけてきてください。

- 定例会は毎月第1金曜日
 - 日時：4月6日(金)18:30~20:30
 - 5月4日(金)18:30~20:30
 - 場所：エコポリスセンター
- 会報発送
 - 日時：5月15日(火)17:30~19:00
 - 場所：エコポリスセンター
 - お手伝いできる方は応援よろしく
- 湧水水路を改善する作業
 - 日時：3月17日(土)9:30~14:30
 - 場所：美術館前
 - 内容：池の水が溜め池に流れるよう水路を掘り下げる作業など。
 - 持ち物：汚れてよい服装・靴、タオル、軍手、弁当、飲み物
 - その他：雨天の場合は18(日)、20日(祝)に延期
 - 連絡先：環境保全課 3579-2598 または 090-4618-1295
- 草っ原ピオトープの柵修理
 - 日時：4月8日(日)10:00~14:00
 - 場所：城趾広場
 - 内容：柵が壊されているので、割竹でなく細い竹でやり直しします。お弁当を食べながらお花見をします。
 - 持ち物：汚れてよい服装・靴、タオル、軍手、弁当、飲み物
 - その他：雨天の場合は15日(日)に延期
 - 連絡先：植田 3958-9209 または 大西 3938-3106
- 総会と懇談会 (p2参照)
 - 日時：4月22日(日)13:30~16:00
 - 場所：文化会館第1和室(5階)
- 徳丸が原公園の池修理と観察会
 - 日時：4月28日(土)10:00~12:00
 - 場所：徳丸が原公園の池
(高島平駅北口徒歩5分)
 - 内容：柵の修理、生き物や植物の様子
 - 持ち物：汚れてもよい服装、軍手、植物図鑑
 - 連絡先：大西 3938-3106
 - その他：少々の雨では実施します
- 求む!!子供たちの参加
 - 自然池かいぼりとザリガニとり・補修
 - 日時：5月13日(日)10:00~12:00
 - 雨天の場合5月20日(日)
 - 場所：美術館前池
 - 連絡先：環境保全課 3579-2598
当日 090-4618-1295
 - 内容：池の水を抜いて、ザリガニを捕ります。昨年つくった水草の箱にいる生き物も探します。
 - 服装：どろんこになってもよい服装
タオル、
- 自然の仕組みを勉強しよう
 - 日時：5月12日(土)10:00~12:00
 - 場所：目黒自然教育園(予定)
 - 連絡先：坂本 3579-2598(勤)